

がんばろう 南三陸町

復興第74号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

企画・編集

志津川広報センター

志高生有志が仮装行列で 「旭が浦祭」告知



9月1日の「志高仮装行列」は高台の志津川高校から生徒がクラスごとの仮装で、文化

祭の前日恒例の仮装行列で、昔から続く学校伝統行事です。

震災前は眼下の志津川駅前市街地を、ウジエスパーから五日町、国道45号を廻り、人通りの多い場所を、50m以上も連なり、警察や安全指導隊が同行した。道路の両側では家族がビデオやカメラで、我が子の姿を追っていた。志津川地区の秋恒例の行事で、これが終わると「稲刈り」が始まる。

午後1時35分から志高を出発しさんさん商店街までのコースながら、雨が時々降っているので中止となった。

商店街のフードコートに行くと、何やら賑やかな場所があり、向かうと仮装した生徒の有志20人位が、行列を作っていた。「旭が浦祭開催します」「おばけやしきやってます」など、志高生が町民や商店街の来場者に、文化祭の告知をしていた。小雨ながら「志高魂」が発揮されていた。

志中生「大運動会」が屋内で 若い力を爆発！

9月1日の当初の運動会の日程から、連日続く雨により翌日の体育館での運動会開催となった。生徒・教員・PTAのグランド整備の努力があったが、残念ながら屋内での開催となった。

きびきびとしたクラスごとの行進があり、生き生きとした笑顔と声援が体育館に響く運動会だった。「中学生最後の運動会」「孫の応援に来ました！」と、多くの父母・家族・地区民が応援する、恒例の志中大運動会となりました。

種目は6種と半分となりましたが、三年生のパフォーマンスに、会場からは多くの笑顔が見られ、1・2年生は先輩たちの姿に刺激を受け、記憶に残る運動会となった。12時までの予定の屋内での運動会、午後にはグランドコンディションも良好となり、抑えきれない若い力は校庭を滑走していた。



旋風～巻き起こせ志中の風～

上山八幡宮「秋まつり」で 神輿渡御と稚児行列



7年ぶりに復活！

9月に入り上山八幡宮から手作りのチラシが氏子に配布され、おれをお願いし寄付金を納めた。

9月14日(金)の「宵宮祭」では上山八幡宮で夜神楽が奉納され、15日(土)に例大祭が開催された。16日(日)には震災発生により途

産者らがアイデアを出していく。ワークショップは年度内に定期的に開催。

南三陸町の神割崎キャンプ場にあるレストラン神割で、「ご当地アイス」が登場。「ホヤアイス」と「メカブアイス」の2種類で、特産をPRする新メニューとして考案したもの。

◆南三陸署は9日、歌津長柴の養殖業の男性(81)を、傷害の疑いで逮捕した。町内の漁業者の男性(45)と口論になり、首にロープを巻き付けて締め、擦り傷を負わせた疑い。

1896年(明治29年)6月15日に発生した明治三陸大津波から122年となるのに合わせ、南三陸町図書館で関連資料を集めた資料展が開かれた。本吉郡誌、歌津町史の記録から、旧志津川町旧戸倉村合わせて約400人、旧歌津村で約800人が犠牲となったことを示すデータもある。約30点を展示。

◆18日に発生した大阪府北部を震源とした地震をうけ、19日南三陸町は被災地を支援するための募金箱を町役場など4ヵ所に設置した。義援金として被災地に送る。

荒嶋神社は志津川湾に浮かぶ荒島にあったが、7年前の津波で島の高台にあった社殿は無事だったものの、鳥居は根元部分のみを残して流出。

来年7月24日に行われる宵宮祭に間に合わせ、鳥居再建プロジェクトを開始した。

◆南三陸町の5月末の人口は、1万3063人で前月比では43人減少。志津川5351人、歌津4313人、入谷1983人、戸倉1416人と、全地区で減少した。世帯数は4573世帯。

絶えていたが、7年ぶりの神輿渡御と、来年小学校入学の子供たちがきれいな衣装を着飾って父母との稚児行列を行った。

稚児行列は志津川地区の20人が参加し、さんさん商店街から上山八幡宮まで、氏子の役員が先導し、天狗と5色のタスキ・神輿が続き、その後を稚児と親が手をつなぎ行列を作った。

商店街の来場者、そして父親が我が子の晴れ姿を撮影するため、行列に同行した。志津川地区の秋の風物詩として、来年も続けてほしい。好天にも恵まれ子供たちの元気な声が、南三陸町の復活の槌音のように響いた。

3700人が南三陸町を激走！



ツール・ド・東北

9月16・17日の2日間、震災からの復興の願いを込め全国からサイクリング好きが、約3700人が石巻市から気仙沼市まで6コースに別れ、被災地の沿岸をサイクリ仲間が走破した。

第6回目の今年は南三陸町ホテル観洋が起点のコースもあり、ホテル前ではスタートする選手をスタッフが旗をふり、声援を送った。また、大川小学校にはコース途中で選手が慰霊塔に手を合わせる姿があったという。

南三陸町内では国道45号のさんさん商店街前の交差点では、赤信号で止まり長い列ができていた。汐見橋からは防災庁舎の今をスマホに収めフェイスブックで紹介するライダーもいた。グループでの参加者は仲間と交差点で一休み、その会話からは関西弁が聴こえてきた。

◆25日に南三陸町議会東日本大震災対策特別委員会は、「高野会館」を視察した。

継続中の審査の中で、委員から現地視察の要望があったため実施。全委員15人が被災した当時のまま残されている、会館内部を確認した。

「子どもみらいグランプリ2018東北地区大会」で、南三陸町のパソコンスクール・アビバキッズ志津川教室の子供たちが全国大会出場を決めるなど活躍した。

◆南三陸町歌津「平成の森」仮設住宅の元入居者らが、24日歌津公民館に集まった。約180世帯、570人が入居していた。参加したのは元入居者ら約50人。

◆23・24日の2日間南三陸町で、インターネットなどを通じて発信に役立ててもらおうと、広告会社やベンチャー企業など関係者を集めた合宿がおこなわれた。東京都の塩谷さんが取材で訪れたのがきっかけで、ネットを仕事に活用している人たちに声がけして参加を募ったもの。

◆南三陸町が、町の魅力を伝えるPR動画の公開を始めた。春・夏・秋・冬の各バージョンを撮影して、季節ごとに町の特徴を伝えていく。

◆南三陸町の仮設住宅の入居期間は、2019年3月末で終了する。

震災から8年住民の住まい再建が、ようやく完了する見通しとなった。

南三陸町は28日、災害復旧事業に関して、虚偽の報告を行なって国から補助金交付を受けるなどの、不適正な事務処理が複数あったことを明らかにし、定例会見で佐藤町長が陳謝した。補助金の返還や一般財源からの持ち出しも行われる見通しである。

未来への教訓

復興！大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)

6月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

◆南三陸町の移住をPRするための動画が、東北映像フェスティバル2018・映像コンテストで特別賞に選ばれた。

5分ほどの映像に町の四季の魅力を盛り込んだ。

◆南三陸町議会東日本大震災対策特別委員会は、継続となっていた「高野会館」の保存に関する請願を審査した。請願した阿部副社長は参考人として招致し、委員からの質疑に応じた。

南三陸町は1日、災害公営住宅の家賃低減事業について、入居6年目以降は段階的に家賃を引き上げることとした。著しく収入が少ない世帯については、既存の制度を活用し、救済措置を講じる考えを示した。

◆南三陸商工会が町内の小学校に通う保護者を対象に、消費購買動向調査を行い、結果をまとめた。買いまわり品については、石巻市や登米市を買い物先として選択、食料品などの日常的な買い物に関しても町内で買う人の割合は、半分にとどまっている。

三陸道の延伸で行きやすくなっていることも大きな理由と思われる。

◆南三陸町が主催する「滞在型魅力向上ワークショップ」が、南三陸ポータルセンターで6日始まった。宿泊施設や体験事業を受け入れる生

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)

5月の出来事

～ 地元報道より ～

南三陸町

3日南三陸町歌津地区の計仙麻大嶋神社と三嶋神社の復興記念大祭が午前9時から行なわれた。

東日本大震災から7年が過ぎ、高台移転での住宅再建、商店街の本設移転など復興が進んだこと、三陸道歌津IC供用開始を始め、歌津地区神社社務所が新築されたことなどを記念して、臨時開催された。

御輿が漁港や防集団地を巡回し、大量祈願や地区の安全などの所願成就を願った。

◆南三陸町志津川の荒島パークの一角に29日、南三陸こどもスタジアムがオープン。荒島パークは「荒島・楽天パーク」に名称が変わった。

◆県議会で選挙区の議員定数を巡る議論が本格化している。

検討委員会の正副委員長から、人口減少を踏まえ、議員定数59を維持しつつ、気仙沼・本吉の定数を3から2に削減する案が示された。復興途上にある被災地の首長から「当面は現状維持で」との意見も出ている。

◆南三陸町立伊里前小学校の3年生が、地元の伊里前川でシロウオについて学んだ。19人が参加し、総合的な学習で学んでいる「古里の自然」の一環で「ざわ」を使った伝統のシロウオ漁を体験した。

◆3日～5日まで南三陸町の復活潮騒まつりが、神割崎キャンプ場前駐車場で行なわれた。今回で5回目で、採れたてのホヤの詰め放題(1回500円)が人気だった。

南三陸署は3日、志津川で工務店経営の夫婦が殺害された強盗殺人事件から16年を迎え、チラシを配布し情報提供を呼び掛けた。有力情報には謝礼金が支払われる。連絡先は46-3131まで。

◆南三陸町は7日、防集団地の空き区画について、3回目の一般向け3次募集を開始した。募集したのは、72区画で6月8日が締め切り。

◆気仙沼・本吉地方中学生庭球大会が、旧小泉中学校コートで6日開かれた。男子は階上、女子は志津川が優勝。

◆南三陸町の今季のサケ稚魚放流が4月末で終了。卵が不足したことで北上川と小泉川から合わせて約811万粒を移入、川を遡上する前の親魚から採卵(138万粒)で補い、合計1011万粒を確保し、目標の1千万粒を達成した。

◆南三陸消防署は、先月災害公営住宅で発生した火災を受け、防災を呼び掛けるチラシを作成。

町内の災害公営住宅8団地、706戸に配布する。

11日南三陸町志津川のあさひ幼稚園で、東日本大震災後から交流が続いている、静岡県富士宮市の認定こども園「ふじキンダー学園」の園児と共同製作した「友情のこいのぼり」が掲げられた。

こいのぼりは5匹で、3mの大きさにキンダー学園の年長91人とあさひ幼稚園の年長と年中25人の合わせて116人の似顔絵が、うろことして貼り付けられている。

◆気仙沼市本吉町と南三陸町歌津にまたがる田東山で、ヤマツツジが見頃を迎えた。12日には多くの観光客が山頂を訪れ、満開のツツジをバックに記念写真を撮ったり、山頂からの眺望を楽しんだりしていた。

◆南三陸町歌津伊里前地内の国道45号が伊里前地内で、復旧工事が始まることから切り替えする。切り替えは17日午後1時30分から。

◆南三陸町のハマレ歌津で13日午前10時から、シロウオを使った恒例の「伊里前しろうおまつり」が開かれた。来場者は「おどり食い」、「しろうおすくい」を楽しんだ。

ほかにも、シロウオのお吸い物、ホヤやワカメの詰め放題やマグロのカマ焼きなども人気だった。

15日南三陸町議会東日本大震災対策特別委員会は、3月定例会に提出された「高野会館」の保存に関する請願を審査し、審査継続することとした。

事前調査で、会館からアスベストが検出されたことも報告され、今回は請願者を参考人として呼ぶことにしている。

◆南三陸町でクマの目撃情報が8～15日の1週間で、足跡を含め3件寄せられている。1週間で3件の目撃情報は多いという。

◆南三陸町は老朽化している町立伊里前小学校体育館の建て替えに着手。1974年の完成から40年以上が経過していて、町教委によると町内の小・中学校体育館では最も古いものだという。

◆南三陸署とNTTドコモがスマホの正しい使い方を指導する教室を、18日志津川高校で開いた。悪質なサイトに繋がらないようにするフィルタリング設定や使用時間など正しいルールやマナーで使うことも促した。

南三陸町は新潟県魚沼市と災害時の相互応援協定を結んだ。町が他自治体と協定を結ぶのは8件目で、16日に魚沼市で調印式があった。

◆志津川高校の自然科学部の生徒らが20日、南三陸町志津川汐見町地内松原海岸で干潟観察を行ない、東日本大震災後の生態系の変化を把握することなどが目的。希少種を含む約40種を確認した。

◆南三陸町図書館で21日、チリ地震津波の被災当時の資料展が始まった。旧志津川町では312

戸が流出し、41人が犠牲となる大きな被害がでた。資料展は津波の恐ろしさと教訓を伝えるため、約50点を展示。

◆南三陸町立伊里前・名足両小学校の運動会で、南三陸消防署歌津出張所が協力し、バケツリレーや消火器の取り扱いなどを取り入れたユニークな競技が、19日行なわれた。

南三陸町で今月クマの目撃が相次いでいて、22日早朝午前5時20分ころ南三陸病院付近を歩いているクマ1頭を住民が見つけた。

現場付近は病院のほか町役場・総合体育館、災害公営住宅などがあり、防災無線で注意を呼び掛けた。

◆防災に対する意識を子供のころから高めるため、町内全校に少年消防クラブが発足した。

◆気仙沼・本吉地方に襲来したチリ地震津波から24日で、58年がたった。南三陸町では正午のサイレンに合わせて住民らが黙とうして、犠牲者の冥福を祈った。あらためて津波防災への教訓を胸に刻んだ。

◆気仙沼法人会の「社会貢献大賞」の表彰式が24日サンマリン気仙沼ホテル観洋で行なわれ、南三陸町歌津の伊里前契約会が最高賞の大賞を受賞した。

伊里前契約会は1693年に互助会として発足したことがはじまりで、伊里前しし舞を継承し、地域の家内安全や繁栄を祈願しつつけている。

県の3月末現在で行った高齢者人口の調査は、県全体の高齢化率が26.9%に対して南三陸町34.9%と11番目に高い。0.7ポイント上がったが、前年の8番目から11番目になった。

◆南三陸町は本年度リサイクルセンター整備の基本構想を策定。

基本構想の策定業務委託料として、本年度当初予算に615万円を計上。クリーンセンターは1983年の稼働から30年以上が経過しているため老朽化している。

◆南三陸町志津川仮設魚市場特設会場で27日、志津川湾かき・ほやまつり福興市が開かれた。今回はカキとホヤをPRした。ホヤの詰め放題では、袋からあふれるほど詰め込む人もいた。

29日首都圏などの飲食店関係者が南三陸町を訪れた。特産のギンザケやカキの漁場を見学した。県内の農水産物をPRするため、生産地ツアーとして企画された。

◆南三陸町観光協会の総会が28日南三陸プラザで開かれた。

本年度は滞在型観光の促進などの強化。昨年度の実績は協会拠点の南三陸ポータルセンターへの来訪者は、前年度から半減した。

◆南三陸町立伊里前小学校のプールが完成。総事業費約1億2千万円で、6月6日に落成式が行われた。

志津川広報センターに残った被災前の風景(2)



2009年9月の志津川公民館での敬老会

高茂商店さん前のお盆の朝市



八幡川の灯籠流し(8月20日頃)



志津川駅前大通りの志高仮装行列を見ようと父兄と町民が集まった。



今は無き、なつかしい旧庁舎